

施工説明書
キノ点検口 配管対応タイプ

SPK-N120VH350 / SPK-N150VH350

この度は、本製品をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。

正しく据え付けていただくために、また製品の性能・品質・安全性を確保するために、この施工説明書をよくお読みいただき施工してください。

安全上のご注意 必ずお守りください。

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

●表示内容と記号の意味は、次のようになっています。

⚠ 注意



この記号は、禁止の行為を示しています。



この記号は、必ず実行していただく「指示」内容を示しています。



本製品に不必要な打撃や加工を加えないでください。本製品が破損する恐れがあります。

火気に近づけないでください。本製品が変形する恐れがあります。

本製品の分解・改造などは行わないでください。ケガをする恐れがあります。

ブラシ・クレンザー及びシンナーなどの溶剤は使用しないでください。本製品が変形する恐れがあります。



表面が汚れた場合は、柔らかい布やスポンジを水で湿らせ、中性洗剤をつけて拭いてください。

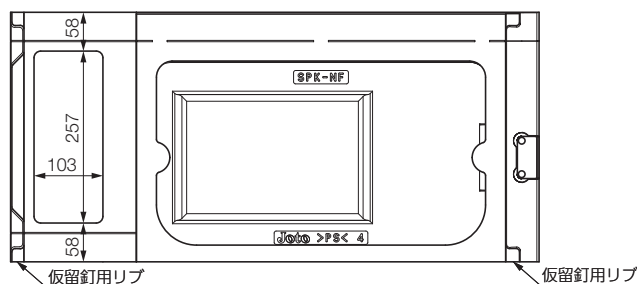
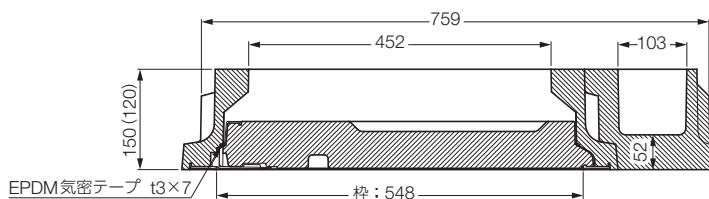
本製品は基礎巾120mmまたは150mm対応となっております。

本製品は基礎高さが土間コンクリートから立ち上がり寸法330～370mm用となっております。

製品寸法図(単位:mm) [人通口開口寸法:巾452×H275]

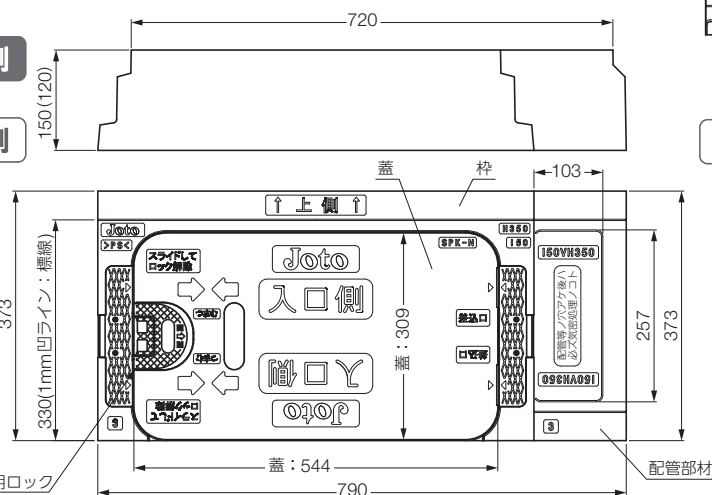
梱包内容

- キノ点検口1コ
- 配管部材1コ
- 本施工説明書1部



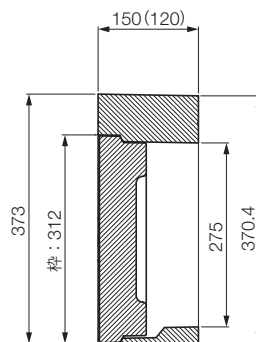
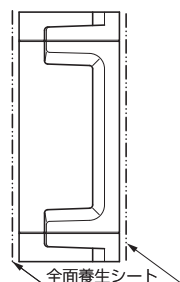
浴室側

室内側



室内側

浴室側



() 内寸法は SPK-N120VH350

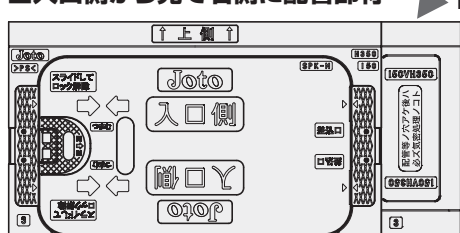
施工手順

- ※縦筋(D10)を300mm間隔時は2本、200mm間隔時は3本カットして納めることを想定しています。
※キソ点検口は基礎高さが土間コンクリートから立ち上がり寸法330～370mm用となっております。

1

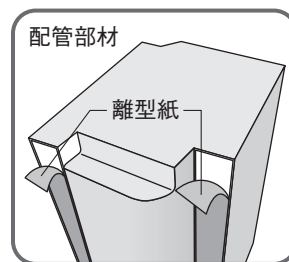
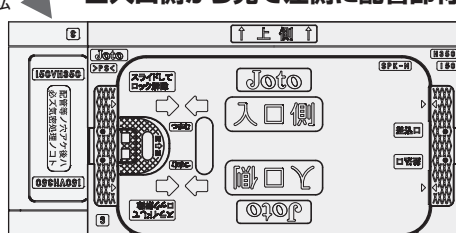
基礎の位置に合わせてキソ点検口を室内側と浴室側、上下を確認してセットします。配管部材は左右どちらにでもセットできます。配管部材の連結面に付いている2本の両面テープの離型紙を剥がし、本体の側面へ底基準で面が合うよう、貼り付けてください。養生シートは型枠の剥離剤やコンクリート打設時のノコから表面の汚れを防止する役割ですので剥がさないでください。打設時にキソ点検口が浮き上がらないように注意してください。

■入口側から見て右側に配管部材

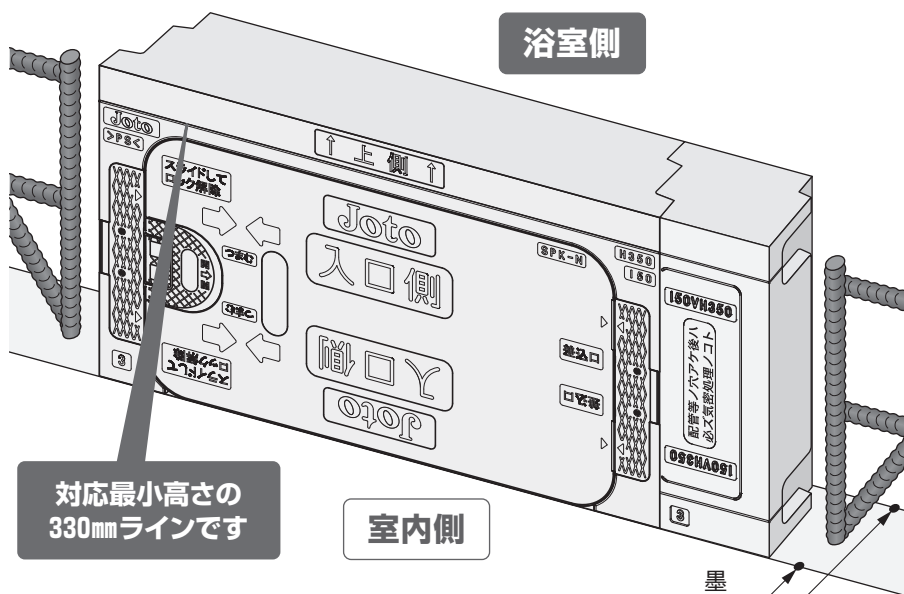


180°回転
させる

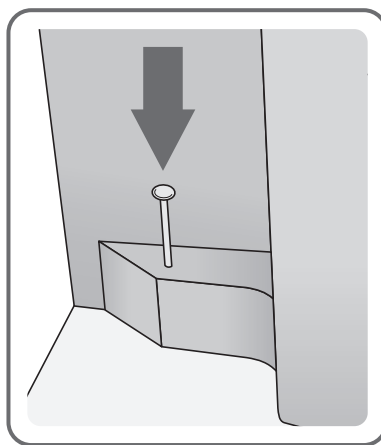
■入口側から見て左側に配管部材



縦筋は必要なかぶり厚さを確保してください。型枠をセットしてコンクリートを打設してください。



※必要に応じて下図矢印部分の枠の下端リブに仮留めの釘を打つこともできます。

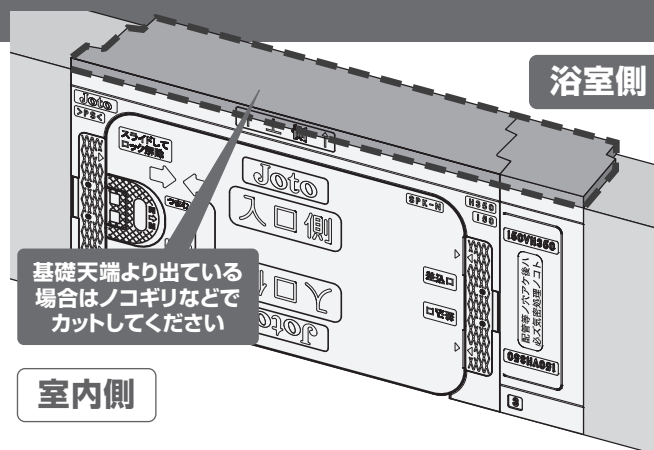


！注意

製品の「上側」表記を確認し、上下正しい向きで設置してください。
鋼製型枠の巾止金具が本製品にかからない様に注意してください。
土間コンクリートとの間に隙間が発生する原因となります。

2

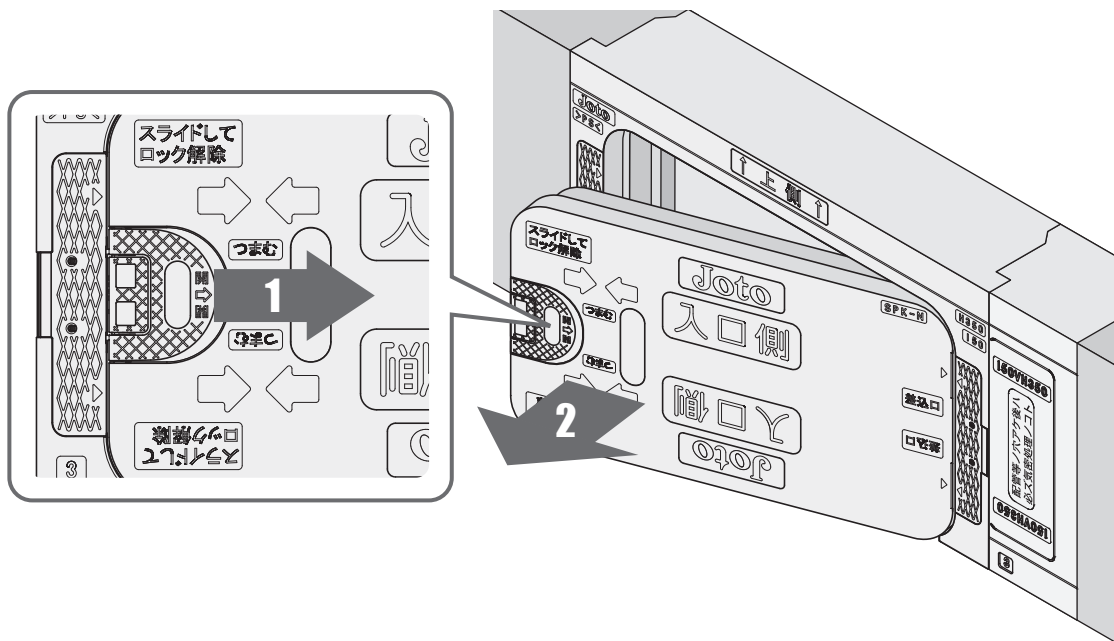
コンクリート打設後、養生期間をおいて脱型してください。基礎天端よりキソ点検口が出ている場合は、ノコギリなどでカットしてください。キソ点検口の枠と土間コンクリートとの接面の気密性を確保するため、コーキングなどで処理することをおすすめします。その際、養生シートとの干渉に注意してください。また、工事中は防蟻剤などで表面が汚れることが考えられますので、養生シートは付けたままの状態をおすすめします。



蓋の開閉について

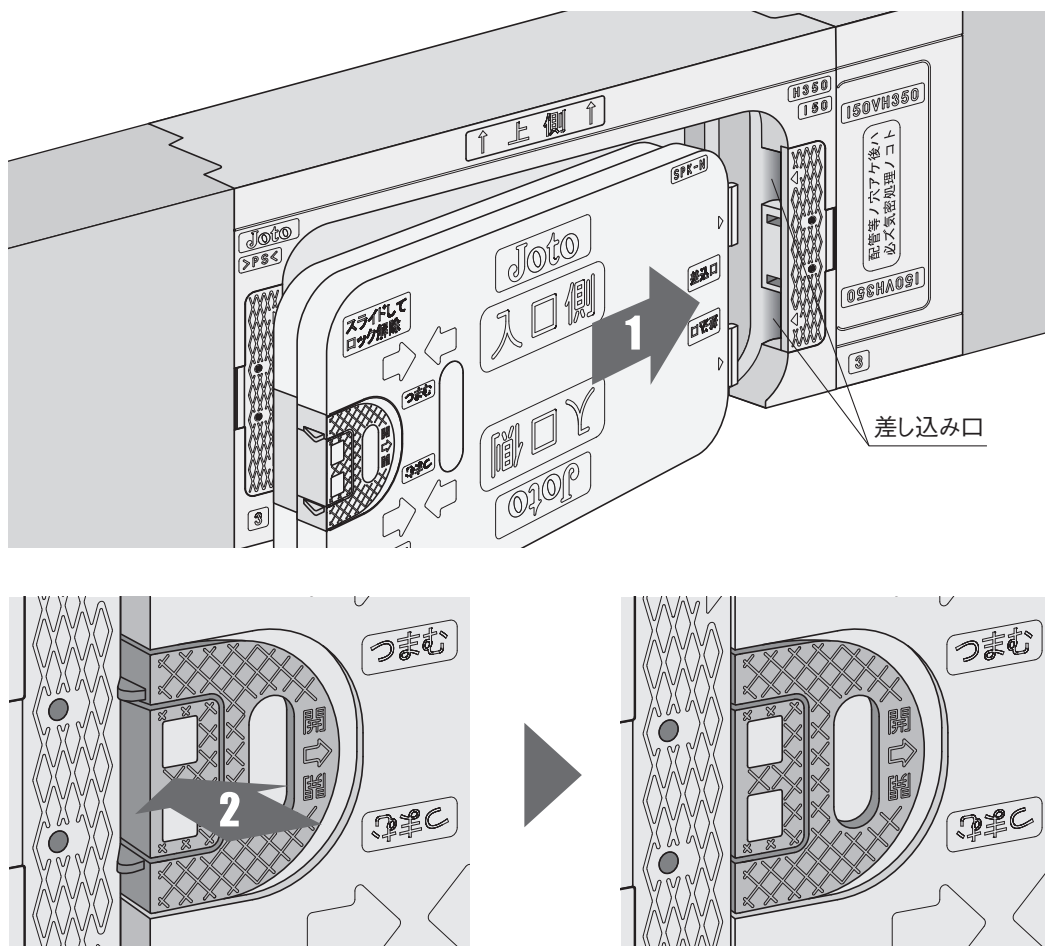
蓋を開ける時

- 蓋を開ける時は、蓋の開閉用ロックを[→開]ヘスライドさせてロックを解除して外します。
(養生シートが付いている場合は剥がしてください)



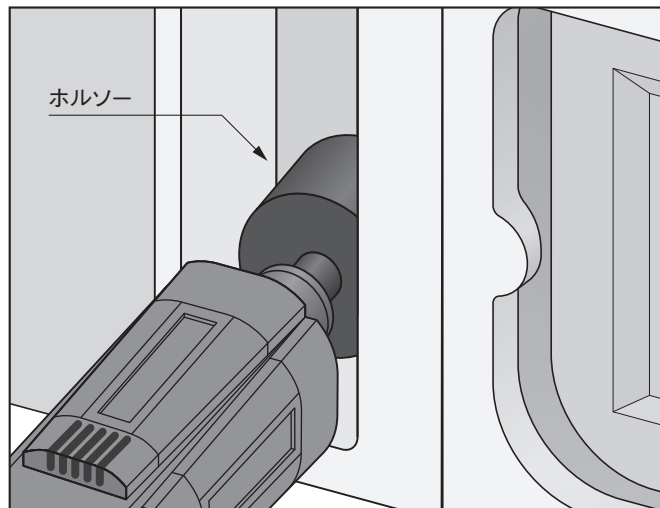
蓋を閉める時

- 蓋を閉める時は、図のように、枠の差し込み口へ蓋を差し込み、開閉用ロックを押し込んでロックしてください。
※開閉用ロックは、左右どちらでも使用できます。図は右開きのイメージです。

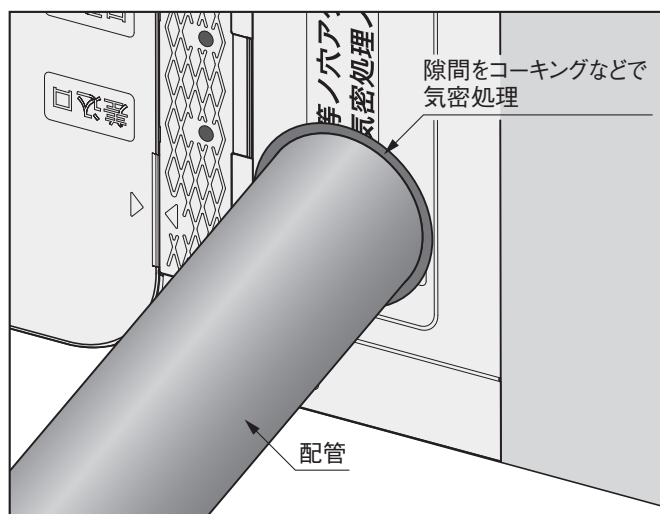


配管部材の穴あけ加工について

- ①ホルソーで穴あけ加工することをおすすめします。
塩ビパイプVU75まで通せます。



- ②配管施工後は気密性を確保するため、穴をあけた配管部材と配管の隙間をコーキングなどで処理してください。



ホルソーでの穴あけ作業は、ケガなどをしないように十分注意してください。ホルソーの取扱説明書を必ずご確認ください。ホルソーの穴あけ貫通後の穴に、ホルソーでの再加工(仕上げ・バリ取り)は大変危険ですので絶対にしないでください。仕上げは手作業のみでしてください。

